

かごしま幕末絵巻

～小松帯刀の目線でみた幕末の物語～

第2巻

幕末のヒーロー、坂本龍馬



幕末偉人列伝



近代大阪を築いた実業家 五代 友厚

Tomoatsu Godai

後に「近代大阪の父」と呼ばれる薩摩藩士。留学生の渡英計画を建言し、自らもイギリスへ渡った。長崎で「亀山社中」をバックアップし、龍馬と軍艦購入の仲介業を行った。亀山社中の船が事故で沈没した際は交渉を担当した。

五代友厚の肖像：国立国会図書館蔵

カステラといえば長崎？
実は薩摩でも作られていて……

IJIN MANGA

～龍馬のカステラ～

果たして龍馬たちは誰に作り方を教わったのか…??

海援隊の雑記帳にはカステラの作り方が書いてある。

カステラ仕様
風味
菓子 百目
うかん 七十目
ひんふ 百目
矢ヲ合テヤクセ
和南実方

うん、どっちでもいいき… もっと詳しいレシピが欲しいぜヨ。

当時、長崎はもちろん薩摩の特産品でもあった高級菓子「カステラ」

お値段 大工の日常1.5倍!

物語の舞台裏



五代友厚誕生地

～鹿児島市～

『三国名勝図会』を編んだ五代秀堯の次男として、天保6年(1835)に鹿児島城下で誕生。若い頃に世界地図を模写するなど知識欲旺盛だったという。天璋院や小松帯刀、坂本龍馬、土方歳三らと同年。

〈交通アクセス〉

鹿児島中央駅から市電16分・市バス10分「水族館口」降車、徒歩13分。

〈問い合わせ先〉

鹿児島市観光プロモーション課
TEL099-224-1111

次巻「薩長と大英帝国」の巻

【画：KENRO 本文監修：南九州歴史学会】

薩摩藩と坂本龍馬が協力、 海運商社「亀山社中」結成！

勝海舟の左遷により行き場を失った坂本龍馬たち門下生。薩摩藩は彼らを招き入れ、長崎で商社を結成させます。薩摩の名家老、小松帯刀の目線で振り返る幕末の物語。

〈慶応元年〉坂本龍馬、薩摩へ

元治元(一八六四)年十一月、勝海舟殿は、開いていた神戸海軍操練所の門下生が池田屋事件などに加わっていたことで左遷され、さらに翌年慶応元(一八六五)年には、海軍操練所と勝殿の私塾まで潰されてしまいます。

勝殿や私たちが目指していた、幕府を中心とした有力な藩主が集まり、話し合っているこの国の政治を進める構想が、とん挫したことがその背景にはあったようです。

ただ、左遷される直前に勝殿と会った西郷吉之助は、海外を視野に入れながら強く豊かな国づくりを目指すという勝殿の考え方に心酔していました。そのような二人を見ていくと、いずれ彼らが日本の政治に大

きな影響を与えることになるだろうと感じずにはいられません。

私は、勝殿の志は、薩摩藩で引き継いでいかなければと考え、大久保一蔵に、龍馬さんや勝殿の教え子「航海之手先(技術者)」として登用することを伝えました。

大量の品々をより早く送るには、このご時世やはり船。また、長州藩に長崎丸を砲撃され航海技術に精通した人材を失っていた我が藩にとって、これらの技術者は必要だったのです。

〈慶応元年〉亀山社中と龍馬の背景

彼らには、薩摩藩のもと、長崎で貿易の仕事をしてもらうことにしました。長崎は、鎖国の中でも、海外の文物を輸出入できる地だからです。

亀山社中と名付けられたこの商社は、薩摩藩の出資で長崎に集まるさまざまな文物を買い、各地に販売していました。

英国に行っている五代才助が帰国したら、この商社を、ぜひ任せたいと考えています。亀山社中は、経営感覚に優れ、英語も堪能な人材がいるので、五代ともきつと気が合うはず。強く豊かな国づくりの実現に向けて、彼らは力を発揮してくれると信じています。

ところで、この亀山社中の中で、特に異彩を放っていたのが龍馬さんでした。彼は、幕府や諸藩の人々とも親交があり、政治的感覚も持っているようです。また、我が藩にとっても

重要な長州藩の桂小五郎とも人脈を持つているとか……。

ちなみに、龍馬さんは、土佐の学者であり画家でもある河田小龍^{かわたしやうりゅう}という方の教えを受けたそうです。河田さんは斉彬公ご存命の時に集成館を見学されたそうで、反射炉などについても説明を受けたと聞きました。

よく考えてみれば、勝殿も斉彬公の時代に磯の御邸である仙巖園と集成館をご見学になっておられます。ということ、龍馬さんは、脱藩前も後、斉彬公の影響を受けた方から指導を受けたことになり、薩摩藩との縁を感じずにはいられません。

【次巻につづく】